



東陽病院 院長 伊藤 文憲

健康へのメッセージ

シリーズ(125)

大腸の病気(Ⅱ)

光町のみなさんこんにちは。今回も大腸のお話です。最初に大腸の検査法について述べます。腹痛や便秘異常がある場合に大腸の検査が必要となります。お腹のX線撮影により異常なガス像の有無や石灰化などが診断されます。更に大腸の病気は腸管内に出血を起こすことが多くスクリーニングとして便の潜血反応検査が行われます。大腸の病変から僅かな出血があると陽性となります。現在の検査はヒトの血液に反応する方式です。以前のような魚や肉などによる偽陽性例は少なく感度が良くなっています。

潜血検査陽性例や大腸が原因と考えられる病気の診断には大腸のX線造影検査が行われます。検査前日から低残渣の食事と下剤を服用し、当日も絶食で検査が行われます。この検査で異常のある場合に大腸の内視鏡検査が予定されます。直接内視鏡検査を行うこともあります。内視鏡の場合は検査当日絶食で来院し大腸を洗い流すような液体を2リッター前後内服し、綺麗な排便状況になつてから検査を行います。前日は制約はありません。検査中は会話も可能で、時には内視鏡の画面を見ながら説明を受けることもあります。腸管内部を観察し、粘膜面から盛り上がった隆起性病変や陥凹した潰瘍性病変に対して組織検査を行い良悪性の鑑別を行います。

大腸の悪性腫瘍はほとんどが隆起性病変から大きくなります。早

期発見には僅かな出血を検知する便の潜血反応検査が有用です。検査の再検査では陽性例の半数は大腸の憩室や大腸炎による粘膜からの出血です。残りの半数は隆起性病変が見られますがほとんど良性で、経過観察となります。大腸の隆起性病変には大きさの変わらない炎症性ポリープと徐々に大きくなる腫瘍性病変があります。腫瘍性の病変にはゆっくりと大きくなる良性の腺腫性ポリープと急速に大きくなる悪性腫瘍、いわゆる「癌」があります。

大腸の腺腫性ポリープは胃の腺腫性ポリープに比べて悪性変化する例が多くみられます。そのために良性の腺腫性ポリープでも一定程度の大きさになったり、形態に変化が見られる時は悪性化を考慮して完全切除することが必要です。この段階では開腹手術は必要無く、内視鏡的な方法で完全切除が可能です。なお、癌が大腸の粘膜内に留まる早期癌では内視鏡的な治療が可能です。進行が粘膜を超えて筋層に達する進行癌では残念ながら開腹して外科的な切除が必要です。

食事の欧米化による肉食の増加、米野菜の摂取不足などの生活習慣の変化により大腸癌の増加が報告されています。早期発見が重要なことは言うまでもありません。その為には腹痛などの症状が長く続く場合や住民検診の際の便潜血陽性時には積極的に大腸の精密検査を受けることが大切であると思われます。

※東陽病院の休日当番日

5月9日(日)、23日(日) 午前8時30分～午後6時
医師2名が待機・来院の際は電話を ☎041335

第4回 子どもと本の講座

昔から歌いつがれてきたわらべうたを親子で一緒に歌ったり、体を動かして遊びながら、楽しいひとときを過ごしませんか。



日時 第1回 6月10日(木)
第2回 6月12日(土)
いずれも午前10時～11時30分
場所 ハイビジョンホール
内容 わらべうた・絵本の読み聞かせなど
定員 各回30組
申込み カウンターまたは電話で受付します。

休館日

5月10日(月)、17日(月)、24日(月)、31日(月)、6月1日(火)、7日(月)

県民の日 映画会

『スーパーマン』

日時 6月13日(日)
午前10時・午後2時の2回上映
定員 各回120名
入場 整理券(無料)を5月29日(土)から図書館カウンターで配布します。



=町立図書館=
☎043311

